

久野原の御田が奉納されます

久野原くのはらの御田おんだは、和歌山県の無形民俗文化財に指定されている伝統芸能です。有田川町久野原区の岩倉神社境内において、2月11日（建国記念の日）に奉納されます。

久野原には縄文時代の遺跡があり、古くから人々が生活をしていました。高野山に伝わる史料には「久美原」という地名や水田の面積が記されており、鎌倉時代には稲作が行われていたことが知られています。しかし、一方で用水路を整備することが困難な地域でもあり、長らく水不足に悩まされてきました。久野原の御田は、このような状況の中で稲作の生産過程を模倣的に演じることで、その年の豊作を神仏に祈願するために行われてきたものです。

全国に伝承されている御田行事の大半は、田植えの所作まですが、久野原の御田は田起こしから、稲刈り、初もみ供えまでの全生産工程を舅しゅうとが聳こぶに教えるもので、このような例は全国的にも珍しく、大変貴重なものと評価されています。

御田を演じる配役は、舅・聳・太鼓打ち・牛・田植子・座ざうたけ謡うたがありますが、太鼓打ちは御田行事を統率し、場を高揚させ、全体のリズムを作る重要な役割を果たしています。

また、子供たちによって演じられる田植子は、御田の終盤で登場し、初まき・苗取り・田植え・稲刈りを演じます。その愛くるしい動作によって、場は華やいだ雰囲気になります。



久野原の御田の特徴は、主役が何もせりふを語らず、舅方・聳方に分かれた座謡による歌や掛け合いに応じて演技をすること、頭に鉢巻きを着用することなどがあり、有田川町杉野原区に伝承されている杉野原の御田舞とは、趣の異なる御田行事となっています。

現在「久野原の御田保存会」を中心とした久野原区民の努力により、400年以上にも渡る伝統が継承され、次世代へ引き継がれようとしています。保存会関係者を中心に、本番に向けた練習や事前準備が行われてきました。ぜひとも2月11日には多くの皆さまに、現地を訪れ、この歴史ある伝統芸能をご観覧いただければと思います。

◆久野原御田

奉納日時／2月11日(土) お渡り12時30分、

御田13時、

奉納場所／岩倉神社（久野原小学校北隣）

